

## 新たなパートナーシップに関する共同声明（仮訳）

グルバングルィ・ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領は、日本国政府の招待により、2013年9月11日から13日までの日程で日本国を公式訪問し、9月11日に安倍晋三日本国内閣総理大臣と会談した。

安倍晋三日本国内閣総理大臣とグルバングルィ・ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領は、

2009年12月のグルバングルィ・ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領によるトルクメニスタン大統領の初の訪日以来、両国で関係発展のための努力が見られることを満足の意をもって指摘し、

グルバングルィ・ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領の今回の訪日が、様々な分野におけるパートナーシップの一層の強化に向けた大きな弾みとなることを確信し、

友好と相互信頼に基づいて行われた首脳会談の結果を高く評価して、以下のとおり表明する。

### I. 二国間関係の強化

1. 双方は、近年、政治、経済、文化、学術を含む様々な分野及びあらゆるレベルで両国間の交流が活発に行われていることを高く評価した。
2. 双方は、本年5月、在日本トルクメニスタン大使館が開設されたことを歓迎し、これを契機として、今後、お互いに両国間の交流の裾野を一層拡大させるよう努めていく意図を表明した。これに関連して、双方は、在日本トルクメニスタン大使館を通じた査証発給が円滑に実施され、両国民の往来を拡大することが重要であると確認した。
3. 双方は、両国政府間の政治対話が活発に行われていることを高く評価するとともに、二国間の諸課題のみならず国際情勢について率直に議論するため、外務省間の政務協議を始めとする種々の会合及び協議を一層活発に行っていくことを確認した。

### II. 経済関係及び経済協力の一層の進展

4. 双方は、近年、両国間の経済分野の協力が様々な分野で活性化していることを満足の意をもって指摘した。特に、双方は、日本が有する高水準の技術が、トルクメニスタンが重視する産業の高度化及び多角化に資するとの認識を共有し、現在、両国企業が、石油・ガス化学プラントの建設をはじめ、様々な分野において活発に協力していることを高く評価した。
5. 双方は、今後、トルクメニスタンにおける資源開発分野への日本企業の参入、GTL（Gas to Liquid）技術の導入、港湾及び発電所等のインフラ整備、自動車輸入販売企業の設立、放送映像機器の納入等、様々な分野において協力の範囲が拡大していくことへの期待を表明した。また、双方は、医療サービス・機器の導入等、医療分野における協力を強化していくことで一致した。

6. 双方は、日本国際協力銀行（JBIC）、日本貿易振興機構（JETRO）、日本貿易保険（NEXI）、ロシアNIS貿易会（ROTOBO）及び両国の経済合同委員会が、二国間の経済関係及び貿易・投資関係の拡大に果たしている役割を高く評価した。
7. 双方は、2013年3月、両国の貿易・投資関係省庁・機関・組織及び民間企業間の活動調整と交流強化を目的として「日本トルクメニスタン投資環境整備ネットワーク」が設立されたことを歓迎するとともに、貿易・経済関係強化のために必要な環境整備に引き続き努める意図を表明した。
8. 双方は、トルクメニスタンの持続的発展のためには、インフラを含む経済・社会資本の整備及び人材育成が重要であることを認識し、この分野において日本国政府による政府開発援助（ODA）が果たしている役割を改めて高く評価した。
9. 双方は、両国外務大臣間で技術協力協定への署名が行われたことを高く評価するとともに、技術協力プロジェクト「地震モニタリング改善プロジェクト」の早期実施につき改めて確認した。また、グルバングルィ・ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領は、様々な専門分野での制度整備、研修等を通じた人材育成における日本からの更なる協力に対して希望を表明した。
10. 双方は、2012年9月の第66回国連総会において、日本の主導により人間の安全保障の共通理解に関する国連総会決議がコンセンサス採択されたことを歓迎し、草の根・人間の安全保障無償資金協力の枠組みでの具体的な協力につき検討することで一致した。

### **Ⅲ. 文化・人的交流の促進**

11. 双方は、両国間の相互理解の増進及び両国民間の相互信頼及び友好の強化に向けて、文化、教育、科学技術、観光、スポーツその他の分野における交流が重要であるとの認識を共有し、両国間の文化・人的交流の裾野が拡大していることを歓迎した。
12. 双方は、将来にわたる両国間の関係強化のためには学生交流・青年交流が重要であることを指摘しつつ、今般、筑波大学とトルクメニスタン国立アザディ名称世界言語大学との学術交流協定の署名が行われ、近く両大学の学生や講師の双方向交流が開始されることを歓迎した。グルバングルィ・ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領は、交流の促進に必要な支援を行う意図を表明した。
13. 双方は、トルクメニスタンにおける日本語教育が両国民間の相互理解促進に大きな役割を果たしていることを改めて確認した。グルバングルィ・ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領は、日本人日本語講師の貢献を高く評価し、

引き続きアザディ名称世界言語大学における日本語教育環境の整備に向けて支援していくことを確認するとともに、その他の高等教育機関における日本語学科の開設について更に検討していく意図を表明した。

14. 双方は、両国民間の親近感及び相互理解の増進のためにはメディアを通じた情報流通が重要であることを指摘し、両国における新聞、TV等で両国の文化が紹介されていることに留意した。中でも、本年8月17日、国際交流基金の協力により、トルクメニスタン国営放送がNHKドラマ「カーネーション」の放映を開始したことを歓迎した。
15. 双方は、トルクメニスタン科学アカデミーと日本学術・産業協力協会による協力に関する覚書が作成されたことを歓迎し、両国間での科学技術分野での協力進展への期待を表明した。
16. 双方は、両国が共に豊富な観光資源を有し、この分野で協力を拡大する余地が大きいこと、また、両国間の相互理解の増進に観光訪問の果たす役割が大きいことに留意し、本年9月12日～15日に東京で開催される「JATA旅博2013」にトルクメニスタンが初出展することを決定したことを歓迎した。
17. 双方は、両国では古来より馬術が盛んであること、また、トルクメニスタンが世界最古の馬種の一つであるアハルテケ馬の原産国であることに留意し、両国間で馬産及び競馬分野の協力が開始されたことを歓迎した。

#### **IV. 「中央アジア+日本」対話の下での協力**

18. 双方は、「中央アジア+日本」対話が、地域協力を促進する未来志向の有益な枠組みであり、この分野で両国が果たし得る役割が極めて大きいことを改めて確認した。これに関連し、安倍晋三日本国内閣総理大臣は、2012年11月に東京で開催された「中央アジア+日本」対話・第4回外相会合の成果及び同外相会合におけるトルクメニスタンの積極的な参加を高く評価した。
19. 双方は、「中央アジア+日本」対話が2014年に創設10周年を迎えることに留意し、2014年にビシュケクで予定されている第5回外相会合に向けて緊密に協力していくことで一致した。

#### **V. 地域及び国際場裡における協力**

20. 双方は、国際関係における「法の支配」の重要性について認識を共有し、力による一方的な現状変更に対峙し、国際紛争を国際法に則って平和的に解決することの重要性を指摘した。
21. 双方は、21世紀の国際社会が直面する様々な脅威に効果的に対処するためには、国連システムを改革することが喫緊の課題であり、特に、平和と安全の維持において主要な役割を担う安全保障理事会を改革するために協力する必要性を強調するとともに、安保理改革の核心は、常任・非常任双方の議席数の拡

大にあることを改めて確認した。

22. 双方は、アフガニスタンがテロ及び麻薬の影響を受けない、平和的で、安定的でかつ経済的に繁栄する国家となるため、同国への支援を引き続き行っていく意図を改めて表明した。双方は、2012年7月に開催されたアフガニスタンに関する東京会合の成果を歓迎するとともに、トルクメニスタンが、広域的なエネルギー・輸送プロジェクトの推進を通じてアフガニスタンの復興に貢献していることを歓迎した。
23. 双方は、テロ行為を断固として非難するとともに、国際社会との連携を強化し、テロとの闘いを続けていくことで一致した。双方は、不法な武器・麻薬取引、マネーロンダリング等の組織犯罪に対処するため、二国間及び様々な国際機関の枠内における多数国間のレベルで緊密な協力を行っていくことで一致した。この関係で、双方は、マネーロンダリング及びテロ資金供与に関する情報交換についての枠組みが設定されたことを歓迎した。
24. 双方は、核軍縮・不拡散へのコミットメントを再確認するとともに、中央アジア地域における核セキュリティ向上のための協力が進んでいることを歓迎した。また、双方は核兵器国による中央アジア非核兵器地帯条約の消極的安全保証に関する議定書への署名について議論するため、核兵器国を含む関係国間の協議が可能な限り早期に行われることへの期待を表明した。
25. 双方は、国際的な義務に違反する核・ミサイル開発を含め、安全保障上の懸念に関する国連安全保障理事会決議の誠実な実施の重要性を再確認した。また、双方は人道上の懸念に係る問題に取り組む重要性を強調した。
26. 双方は、2015年までのミレニアム開発目標（MDGs）達成のため、引き続き緊密に協力していくことで一致した。また双方は、ポスト2015年開発目標は、人間の安全保障を指導理念とし、防災の主流化やユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進といった課題にも対処する効果的な枠組みとすべきであり、全ての国や民間セクター、市民社会などあらゆる開発の担い手が責任を共有し応能の協力をするグローバル・パートナーシップの構築が重要との認識を共有した。
27. 双方は、地球環境問題の解決のために協力を深化させていくことで一致し、また、持続可能な開発のためにはグリーン経済への移行が重要との認識を共有した。安倍晋三日本国内閣総理大臣は、トルクメニスタンによる気候変動関連技術に関する中央アジア地域センター設立に係るイニシアティブに留意しつつ、その環境保護の技術・知見を、トルクメニスタン及びその他の中央アジア諸国のグリーン経済への移行を支援するために活用する用意があることを表明した。双方は、気候変動問題の重要性を再確認し、2012年12月にドーハで開催された国連気候変動枠組条約第18回締約国会議（COP18）の成果を踏まえ、全ての国が参加する公平かつ実効性のある新たな国際的な枠組みの構築に向け

て、引き続き積極的に協力していくことで一致した。

28. ギルバングルィ・ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領は、温かい歓迎に感謝の意を表するとともに、安倍晋三日本国内閣総理大臣が、都合の良い時期にトルクメニスタンを訪問するよう招待した。日本国内閣総理大臣は、この招待に対し感謝の意を表した。

2013年9月11日、東京

日本国内閣総理大臣

トルクメニスタン大統領

安倍 晋三

ギルバングルィ・ベルディムハメドフ